

「子供たちとかかわる活動に興味がある若者のためのボランティアセミナー」

- 趣 旨**：ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を学ぶ。また、今後のボランティア活動についての意欲を高め、青少年教育施設や地域社会等で活動できるボランティアを育成する。
- 日 時**：令和2年9月12日（土）12：30～13日（日）15：50
- 場 所**：国立淡路青少年交流の家
- 対 象**：子どもたちと関わるボランティア活動に参加したい、もしくは興味のある若者
- 参加者**：20名
- プログラムの内容**：



1日目

12：50～ 開講式・チェックインミーティング・食材争奪ゲーム

まず、交流の家職員によるチェックインミーティングからセミナーが始まった。「Q. セミナーへの参加動機は？」や「Q. ボランティアと聞いて思い浮かぶ言葉は？」などの問いかけに対して、参加者一人一人が自分の思いを言葉で表現していった。

緊張の表情を浮かべながらも、積極的に取り組もうとする参加者が多く、お互いのことを知るよいきっかけとなった。また夕食の野外炊事に向けた食材争奪ゲームを通して、グループ内で参加者同士が打ち解けていった。



14：00～ 野外炊事（カレー）

午後は、交流の家の野外活動プログラムである野外炊事に挑戦してもらった。今回は交流の家職員の指導は安全管理に関することにとどめ、火おこしの方法や飯盒でご飯を炊く方法を自分たちで考えてもらった。最初は、初めて会うメンバーと協力して火おこしや調理をしていくことに苦戦していた。

しかし「さっき、こうしたら火が点きそうだった」「野菜を切るの手伝うよ」等の声が聞こえるようになり、メンバーとの関わりを徐々に深めていく様子が見られた。最終的にはどの班もカレーを無事完成させた。

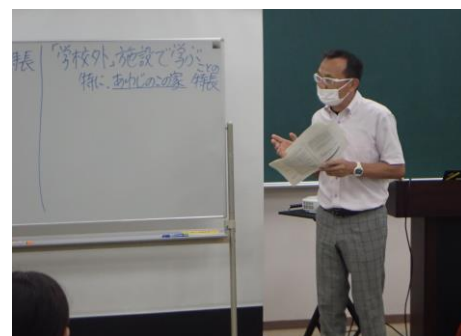
最後にふりかえりを行い、それぞれの班から工夫した点等の発表をしてもらった。「おいしいカレーができた」以上に、「みんなでカレーを作れて楽しかった」「みんなで協力できてよかった」などの意見があがり、多くの参加者が野外炊事のおもしろさや、コミュニケーションを図る楽しさに気付けたようだった。



18：30～ 講義『青少年教育施設の現状と運営』

夕食後は、兵庫教育大学より森田啓之先生をお招きし、講義をしていただいた。参加者にとって最も身近である「学校教育」と「青少年教育」を比較していくことで、参加者は青少年教育の意義について理解できたようだった。

また、「ボランティア活動自体を楽しんでほしい」というメッセージを受け、参加者自身のボランティアに対するイメージも変わったのではと感じた。



19:40～ 教育事業『活動紹介』

淡路の代表的な3つの教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」、「AWAJI 未来探検隊」、「親子ちゃれんじ」について、淡路の法人ボランティアから紹介をした。どの教育事業も昨年度の報告書や、「ジュニアチャレンジ淡路島一周」では、昨年度の活動の様子をまとめたムービーを交えることで、多くの参加者が淡路の活動に興味を持ってくれたようである。

それぞれの事業の魅力や、やりがいについて、参加者なりに様々なことを感じていたようであった。さらに、「ボランティア育成ビジョン」を用いて、ボランティア活動を通しての、ボランティア自身の成長についても説明を行った。

パネリストである先輩ボランティアに参加者から多くの質問があったことから、参加者にとって大変有意義な時間になったことがうかがえた。



2日目

8:30～ 『安全管理講習』

安全管理講習ではボランティア活動に携わるにあたって重要なことを体験型で実施した。「応急手当」、「救急救命講習」の2つの内容を、講義や実技によって学んでもらった。

応急手当では、昨日行った野外炊事についてボランティアの立場で振り、「安全管理」の視点を実感してもらえたと思う。救急救命講習では、各グループに具体例を提示し、ロールプレイを行った。

ボランティア活動中や、日常生活で実際に起こり得ることということもあって、どの参加者も真剣に取り組んでいた。参加者からは「AEDを実際に使えてよかった」「練習しておかないと、いざというときに行動に移せない」という意見があがった。



12:30～ 『ボランティアとは?』

最後のコマは「ボランティアとは?」というテーマで、大本所長の進行によるフリップディスカッションを行った。「国立淡路に来る子どもたちのニーズは?」や「国立淡路でボランティアをしてみたいあなたのニーズは?」などを参加者に考えてもらった。参加者からは「非日常感を味わうため」や「知らないことを知る楽しさ」などの活発な意見交換が行われ、お互いに様々な刺激を受けていた。

また講義の中で法人ボランティアのOBIによる話もあり、参加者自身のボランティアに対する気持ちや考え方にも影響を与えているようだった。



7 参加者の声

- ・実際にボランティアをしている方の体験談がたくさん聞けてよかったです。
- ・1泊2日でしたが、頭が重くなるほどの発見ばかりで、考えさせられ勉強になりました。
- ・心肺蘇生など生死に関わる体験ができた。
- ・初対面の人と活動ができて楽しかった。講義・実習がとても興味深かった。
- ・そこまでボランティアに興味はなかったのですが、このセミナーを通して多くのことが知れてボランティアに参加したい気持ちが高まりました。
- ・人生の先輩たちからの話をたくさん聞くことができ、自分の進路の参考になりました。

8 所感

- ・セミナーの満足度は高く、今回の参加者が今後の教育事業にボランティアとして参加してくれると期待している。
- ・参加者のこれまでのボランティアの考え方にも影響を与えられたようで、「楽しかった」や「興味がわいた」という意見が聞かれたことは、今回の目的である「楽しむ」につながられたのではないかと感じた。
- ・ボランティア育成ビジョンを活用することで、国立淡路青少年交流の家のボランティアのことをわかりやすく参加者に伝えることができた。今後もうまく活用していきたい。
- ・当日中に参加者の半数程の方が新たに法人ボランティア登録しており、その後もWEBからの登録があった。近日開催予定のボランティア募集の案内を行い、今後の定着につなげたい。
- ・現在活躍中の淡路のボランティアスタッフも、今回のボランティア養成セミナーのボランティアを通して、様々なことを感じ成長できていると感じた。